

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に、みやびとしての姿勢や行動指針、笑顔になれる風土作りなどを運営者・管理者・リーダーと共に新たに作成している。 法人理念 安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します。	○ 法人理念に基づいたユニット個別理念 ほのぼのした明るい雰囲気喜びと安心できる輪の中寄り添い共に過ごす
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念に基づいたみやびの姿勢や行動指針とともに、各ユニットの理念を作成し、エレベーターの前やユニットに掲げ朝礼や全体会議ミーティング等で確認している。	○ 今年度はグループホーム全体のスローガンを掲げ実践している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	みやびの姿勢・笑顔になれる風土作り・行動指針を掲げ、家族会での説明や地域との交流の場においてちらしやパンフレットに掲載したりしている	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物、個別外出またはグループ外出を頻繁にしており、挨拶し交流を図っている。一部顔なじみになってきているところもある。バザーや夏祭りは回覧を回してもらい参加、協力頂いている	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会は活動があまり活発ではないので参加の機会はないが、地域の神社祭りや夏祭りには声かけ頂き参加している。当施設主催の夏祭りを地域に呼びかけ参加・協力して頂け交流の場を広げている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	災害を想定し、実地訓練と備蓄分の消費を行い備蓄物品の回転を行っていく
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	今後も勉強会、ミーティングなどで理解を深める

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		今後も家族会に介護相談員さんの参加を依頼していきたい（その際は職員は退席）
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最低限度に抑えるように努めているが職員の離職等に伴い異動を行った。利用者のダメージの予防には十分配慮しつつ、職員のフォローもしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○J T推進委員会を設置し、職員の資質向上に努め、計画だてて取り組んでいる。府社協や市、グループホーム協議会等の外部研修や内部研修と平等参加できる機会を設けている。研修後は報告書を提出し、全体会議での伝達講習をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市のグループホーム部会として計画作成者の集いを月1回開催（他市も含む）定例化し交流が図られている。管理者・リーダー・正職員・非常勤含む交流会も4月に開催し、多くの参加を得られた。	○	今後も継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各ユニットや法人全体での懇親会・親睦会を設けている。○J Tの一貫でリーダー・管理者との面談により、スタッフのストレスや抱えている問題の発見に努めている。管理者は職員一人一人に勤務時間内外でコミュニケーションをとり、身体・精神・社会的ストレス（仕事や家庭）の発散やバーンアウトしない声かけや同僚へのアプローチを行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得や希望の研修等においては勤務調整や研修受講をしている。○J Tの一貫で年1回自己評価をし、年2回個別目標のためのリーダー・管理者・スタッフで面談を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ユニットリーダーや職員が相談時や初回面接時に管理者と同席し本人より要望や不安な事を聴きサービス計画、サービス提供に活かしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネからの情報提供を受けている。相談時や初回面接時に管理者と同席し家族より要望や不安な事を聴きサービス計画、サービス提供に活かしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のケースに応じ他のサービスや自施設の空き情報などの提供、他のグループホームの紹介などを行っている。紹介先に入居された場合、家族様よりその旨の情報を得ている。2～3か月毎に待機の方へは、状況確認の連絡を入れている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談し短期利用を使いながら徐々に馴染めるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事など職員と一緒にいる中で本人の経験に基づいた事を教えて頂いたり、日常生活と一緒に過ごす事で喜怒哀楽を共感できるようにしている。	○ 職員間の声掛け連携を強化し、業務を分担して利用者と一緒に過ごす時間を増やす。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来苑時に状態や状況報告を行っている。また、状態に変化があれば連絡し相談している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	法人の全体行事や家族会、フロア行事などを定期的に開催し家族にも参加の声掛け行い来苑する機会をつくっている。また、職員送迎での帰宅支援も行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別対応にて馴染みの場所へ行ったり、本人の希望があれば電話連絡を行っている。	○	本人から馴染みの場所などを聞き、個別対応にて外出先に取り入れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の相性を考え座席などに配慮し過ごしやすい環境をつくっている。 また、家事やフロア行事にて利用者同士が関われるよう働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者は現在いないが必要な時は便り等を送付することとしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望を聞き出したり、聞き出すのが困難な方には職員の声掛けに対する反応や家族に確認し判断している。	○	アセスメントシートの本人の願いや要望欄を職員全員が記入し（家族にも協力して頂き）まとめていく事で情報の共有、把握に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴シートを家族に記入してもらっている。入居後は家族来苑時に不足情報などを積極的に聞き取りを行なっている、また本人にも普段の雑談の中から情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕の申し送りや申し送りノート、支援経過記録を活用し把握に努めている。定期的、または必要時にケア・カンファレンスを開催し一人ひとりのアセスメントを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや業務時に職員からの意見を聞き本人が望む事（言っていた事）などを話し合い介護計画に取り入れ家族にも確認してもらっている。	○	多くの意見を聞けるようにカンファレンス等に参加できない人の為にカンファレンス提案用紙などをもっと活用し記入してもらえるようにする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度または状態の変化に伴いその都度、目標設定や援助内容の見直しを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と関連づけた記録（支援経過記録）を記載し共有している。	○	支援経過記録の内容についてまだ介護計画と連動できていない部分もあるので改善方法を考え実施していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスでのイベントや法人全体での行事に参加してもらえるようにしている。またグループホーム内他ユニットとの交流ができるようグループホームクラブを毎月4回実施している。そのクラブの中にデイ利用者にも参加してもらっている。	○	本人の希望があれば他部署（ユニット）と連携し施設内を自由に行き来できるよう取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向に沿って毎月お茶の先生にボランティアで来てもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他事業所と月1回計画者作成者の集いや職員交流会を実施しており情報を共有し他のサービスを利用するための環境は整えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働したことはない。	○	権利擁護など必要があれば協働していく体制を整えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や状況に応じて、本人や家族の要望をふまえ、本人の状態・状況に応じ家族と相談し受診・往診を決めている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳外科・内科全般に診る医師と精神・神経内科専門の医師の往診を本人や家族の要望にあわせ選択している。連携している医療機関は職員が相談しやすい体制にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者や同事業所の看護師、往診クリニック・診療所の看護師と連絡相談できる体制にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者・リーダー・スタッフ頻回に面会に行き、家族や病院の医師や看護師・医療相談員など（家族の同意を得て）から情報を収集している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に医療連携体制指針を説明し同意を得ている。各ユニットにも指針を配置し、重度化した際は、本人・家族・主治医・スタッフを交え、方針を検討し話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時や状況の変化時は家族の要望を早期に把握できるよう日頃より情報収集したり、口頭で意向を確認することに努めている。また、対応できる事、できない事も説明、その都度対応、スタッフのミーティングなども行い連携機関と調整し取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と移り変わる施設の関係者とともに十分話し合い必要な情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけなど心掛けているが不十分である。	○	ミーティング等の場を利用してプライバシー、個人情報に関する事を職員に伝えていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段の会話の中から希望を聞き出している。意思疎通が困難な方にはこちらから提示し選んで頂くようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先してしまったり、特定の利用者に関わらざるを得ない状況が多く希望に沿った支援ができていない。	○	職員工夫、協力し合いできる限り利用者の希望に沿った生活を送って頂けるよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問理容利用している。他店を希望される利用者がいれば対応できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や下膳、食器洗い、食器拭きなどできる範囲内でもらっている。食事づくりの際には利用者の方の意見も取り入れメニューを決め買い物も一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	フロアイベント時など希望される方にはお酒を出している。買い物の際におやつ購入時には好みの物を選んでもらい、また外食事には好きな物を選んでもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し個々の排泄リズム（パターン）を把握し、その方にあった時間帯にトイレ誘導行いできるだけトイレ内で排泄してもらえるように努めている。	○	利用者の経済的負担も考慮して必要のないものは使用しないよう取り組んでいる。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望される方には可能な限りその日に入ってもらっている。その他の方には概ね2日に1回の頻度で入浴の声掛けさせてもらっているが拒否される方もおられ必ずしもその日に入浴してもらえていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活リズムや希望に合わせて入床、起床、日中臥床する支援を行っているが、身体に影響があったりする場合はこちらである程度調節させてもらっている。	○	日中の活動量を増やし夜間良眠できるよう努めていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で今まで培ってきたものや今できる事で役割を持ってもらっている。また、その方の好きな事やしたい事を把握し可能な事から実際に行い楽しめるように努めているがすべての方に対しては行っていない。	○	再度各利用者の生活歴を見直しその方の事を知り（把握し）、現在の状態に照らし合わせて可能なことから個別に対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方には小遣いを持ってもらっている。 困難な方にはユニットで管理し外出時に買いたい物を選んで頂き支払いを職員と一緒にしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の人員などの状況に応じて散歩や買い物などには出かけているが、利用者の希望に副って出掛ける事は毎回ではできていない。	○	個々の希望に副った外出は個別に外出している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月グループ外出、全体外出の企画をたて外出する機会をつくっている。その際家族にも参加の声掛けを行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	法人1Fに公衆電話を設置いつでも自由に利用できるようにしている。手紙もいつでも出せるようにしており希望があれば代筆している。また緊急な場合などはユニットから電話してもらえるようにもしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人の来苑を奨励している。また来客時、歓談できるスペースを居室以外にも用意している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止のためのマニュアルをグループホームで作成し各ユニットに常備しているが運営基準等法制度を理解している職員は少ない。	○	「わかり易いグループホーム運営基準」の冊子を○JT推進会議にて作成し各ユニットに常備するよう進める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの職員全員が弊害を理解しているとは言い難い。エレベーターは通常の操作では開かないようになっており階段の扉は施錠している。安眠の為夜間居室に鍵をかける事を望まれている方がおられ家族同意の元鍵をかけている(夜間のみ、巡回時はその都度あけさせてもらっている)。	○	エレベーターは通常の操作では開かないようになっていたためEVホールの目につく所にエレベーターの扉の開け方の説明文を貼る。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間声を掛け合い見守りを意識するように心がけ利用者の安全に配慮している。	○	ヒヤリハット記事を奨励しミーティングで各ケースについてのリスクやその対策について話している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各利用者が何を持っているか職員把握するようにしてその方の状態に応じて預かるようにしたり(ライターなど)そのまま置いている。危険な物品は引き出しの中など目の届かない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対応マニュアルを作成し配備している。ヒヤリハットや事故報告書の記入を推奨し月1回集計・分析・対応策についてカンファレンスを行い、一人一人の事故の可能性について検討している。ヒヤリハット集計より個別リスクシートを作成しグループホーム全体で共有している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対応マニュアルを配備している。全体会議で急変や事故対応について勉強会(説明など)を開催している。		消防署の救命講習の開催予定
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な避難訓練を実施しているが地域の方々の協力が得られる働きかけがまだされていない		消防署との防災訓練を地域の方々と一緒に取り組める体制を実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	できるだけ抑圧感のない暮らしをしてもらう為の話し合いをカンファレンス時などで行い実施している。その為に生じるリスクについては面会時などに家族へ説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時と入浴前にはバイタル測定を行ない、表情や顔色などに気をつけ異変のある時は出勤している職員で対応について話し合い、看護師に連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し適宜更新し情報の共有を図っている。与薬方法についてはマニュアル化しダブルチェックを複数回行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時には乳製品や食物繊維を含んだ物を出すようにしている。水分チェック表を利用し水分摂取量に注意をはらっている。排泄チェック表にて排便状態を確認し便秘剤の服用はマニュアルに沿って調節している。また日中の活動量を増やすための活動（家事やフロア行事等）を促進している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人でできない方には毎食後口腔ケアを介助にてして頂いている。一人でできる方には毎食後ではないが口腔ケアの声掛行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を活用し日々の摂取量を把握して、その方の好き嫌いや状態に応じて食事形態を変えている（別食、刻み食やミキサー食など）。また、必要に応じて介護食器等使用している。	○	水分摂取量が少ない方にはゼリーなどを用意し摂取してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防の研修に毎年参加してもらい、職場に反映させている。各ユニットにマニュアルを配備し実施している。流行時は朝礼にて注意喚起している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫を確認し食材、食料品の賞味期限をチェックしている。調理用具は定期的にハイター消毒している。	○	職員全員が衛生面に気を配れるようにマニュアルを作成し意識するように努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ユニット入口にはユニット名や入居者、職員の写真、飾り付けをし親しみやすいようにしている。建物全体にもグループホーム専用の入口を設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはその時の季節にあった飾り付けをし、ベランダにはその時期に応じた野菜や花などを植えている。ベランダ付近の窓等には暖簾やカーテンを利用し遮光できるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食卓や普段にも使用しているテーブルやソファを置きその他のもグループや個人で過ごせるサンルームやベランダにテーブルや椅子など用意し好きな場所で過ごしてもらえるようにしている。	○	サンルームやベランダを使用する方が少ないので活用方法について検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には今まで使われていたタンスや置物など使 い慣れた物を持参し使用してもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	その時の状況に合わせエアコンの使用や換気を行 い温度調節、空調を行っている。また、冬場は加 湿器を使用し湿度にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手摺を設置し安全に配慮 している。 ベランダ、フロア間の段差ある為車いすの方は1 人で移動する事ができない。	○	ベランダとフロア間の段差については改善されて いない為引き続き改善策を検討する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	それぞれの居室、浴室、洗濯室、階段扉には名札 を貼っている。またそれ以外にも居室入口の棚に は入居者の馴染みのものを置いたりフロアには日 付や曜日を大きく書いた物を置いている。	○	ベランダには季節にあった花や野菜などを植え楽 しめるようにしている。冬場は洗濯を干す事以外 に使用する事は少ない。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節にあった花や野菜などを植え楽 しめるようにしている。冬場は洗濯を干す事以外 に使用する事は少ない。	○	時候の良い時にはベランダにておやつや食事をで きるようにしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・業務に追われる事なく職員間協力し利用者に関わる時間を増やしていきより良い関係を築けるよう取り組んでいる。
- ・利用者への言葉使いや態度など接遇面での改善に取り組んでいる
- ・生活リハビリやレクリエーション活動を充実させ楽しみをもって頂けるよう取り組んでいる。
- ・定期的に外出（モーニング、グループ外出、個別外出、全体外出、外食）する機会をつくっている。
- ・生活の中で役割をもてるように家事でできる事をして頂けるようし、何事も職員だけで行わず出来るだけ一緒に行うようにしている。
- ・各利用者の情報や思い、願いを職員全員が把握できるよう協力してアセスメントシートを記入できるように取り組んでいる。
- ・リスクマネジメントにも力を入れ利用者が安全に生活できるように取り組んでいる。
- ・全体行事では、夏祭り、新年会、忘年会、バザー、クラブ活動を行っている。